

## 神戸大学校友会ニュースレター

いつも校友会の活動にご支援ご協力いただきありがとうございます。

### — インフォメーション —

#### 【1】トピックス

- (1) 神戸大学クラブ (KUC) 新春講演会と懇親会ご報告
- (2) デトロイト支部同窓会のご報告
- (3) 「神戸大学留学生東日本同窓会」が開催

#### 【2】お知らせ

- (1) 「Kobe Japanese Program January 2024」を実施
- (2) 神戸大学生による「フードドライブ企画」を実施
- (3) 食品ロス削減プロジェクト  
— 神戸大学災害備蓄食料品余剰分を寄贈
- (4) 国際交流基金の研修生との交流会を開催
- (5) 第2回神戸大学先端バイオ工学研究センターシンポジウム「バイオとデジタルの融合によるバイオものづくりの革新」を開催
- (6) 神戸大学起業部のメンバーが、JETRO 主催「J-StarX 欧州派遣プログラム」に参加
- (7) 国際海底機構事務局長一行が来訪
- (8) 大連大学から訪問

#### 【3】研究ニュース

- (1) 加速度計を用いたセルフモニタリング介入が要支援高齢者の介護予防に有効
- (2) 死の罨が育児室に！ テンナンショウとキノコバエの奇妙な関係
- (3) 海底を覆う大量の鬼界カルデラ巨大噴火の噴出物を発見  
過去1万2千年で地球上最大の噴出量
- (4) 土器の形にはなぜ文化差が生じるのか  
非伝統的な土器型でも形態発生は共同体特有の軌道を辿る
- (5) 約1世紀ぶりの快挙！ 新属新種の植物「ムジナノショクダイ」を発見

- (6) 前立腺癌におけるコウボク由来物質と抗うつ薬の新規類似物質の抗腫瘍効果を発見
- (7) 放線菌由来新規物質 nanaomycin K が前立腺がんの増殖と転移を抑制することを発見

#### 【4】受賞・受章

- (1) KANSAI STUDENTS PITCH Grand Prix 2024 で神戸大学起業部の FairMed が特別賞を受賞
- (2) 本学の共同研究プロジェクトが日本オープンイノベーション大賞を受賞
- (3) 第20回キャンパスベンチャーグランプリ全国大会で FairMed が最高賞の文部科学大臣賞・テクノロジー大賞を受賞
- (4) 学生ビジネスプランコンテスト JUMP vol.3 全国大会で FairMed が優秀賞（グランプリ）を受賞
- (5) JSPS 「令和6年度研究拠点形成事業（A.先端拠点形成型）」に採択
- (6) 人間発達環境学研究科 関典子 准教授が「お茶の水女子大学賞：第8回小泉郁子賞」を受賞

#### 【5】フィーチャー

- (1) 「人間の安全保障」から SDGs と国際関係を考える
- (2) 自民党派閥の政治資金パーティー裏金事件を問う
- (3) シャーレ上で発生を再現し、“植物の生きざま”を理解する

#### 【6】イベント等情報

- (1) イベント情報

## 【1】トピックス

### (1) 神戸大学クラブ (KUC) 新春講演会と懇親会ご報告

令和6年の神戸大学クラブ (KUC) 新春講演会は、藤澤学長をお招きし2月8日に「楠公会館」において開催しました。

藤澤学長から、ポートアイランドに建設される「バイオものづくり研究拠点」をはじめとして、国際港都・神戸にキャンパスを構え、開放的で国際性に富み、「学理と実際の調和」という建学の理念の下、異分野共創研究を目指す「グローバルイノベーションキャンパス構想」についてお話しいただきました。

当日は、凌霜会、文窓会、紫陽会、神緑会、くさの会、六篠会、KTCから25名の卒業生が参加しました。



### (2) デトロイト支部同窓会のご報告

日時：2024年2月18日 (日)

場所：Mitchell's Fish Market, Livonia, Michigan

立春の日を過ぎて二週間経ち、日に日に日照時間が長くなってきていることが感じられる中、新年会を兼ねた同窓会を開催しました。校友会本部から年始めに届けられていた Outline 2023 を使って、近年再編を経た学部・大学院の現況、予算、学生数、教職員数、学生出身都道府県、理・工・農学部生の高い大学院への進学状況、留学生受入れおよび派遣状況、Naming rights、世界大学ランキングなどを概観しました。

中でも三団体の実施する世界ランキングで母校が、国内で"Second Ten"であることにも満足できませんが、世界で500位から800位という現実にはショックを隠せない卒業生も少なくありません。

今回、Covidの最中(2022年)に赴任されていた弘中氏から、ご本人の神戸大学入学は小学校時代からの目標であったこと、イタリア、ドイツ、アメリカ(CAとMI)と三カ国での在住経験をもって、Michiganが最も住心地のよい

土地であるとのことをお聞きし、初対面の参加者全員の自己紹介を経て、神戸大学コミュニティネットワーク(KU-Net)の周知と、創立 120 周年記念募金寄付、広報誌「風」に紹介された和牛の霜降り肉が、1989 年の GATT ウルグアイ・ラウンドで決定された牛肉輸入自由化をきっかけとする国産牛肉高級化政策であったことと、30 年を超えるその「製造」が現在直面する遺伝子の問題などを話しました。

次回は、昨年一度開いた一橋大学との合同食事を 4 月中旬に開く予定です。

卒業生・現役生・留学生を問わず、Detroit を訪問される機会がありましたら、大歓迎いたしますので、校友会を通してぜひご連絡ください。

参加者：牛飼 均 (2010 (海洋政策科学(海事科学)))

宮脇 佑輔 (2010 工)

Hamed Torjani (2003 工・院)

弘中 研 (1995 経済)

瀬川 恵 (1993 国際人間科学(教育))

山田 守 (1982 経営)

(山田記)

### (3) 「神戸大学留学生東日本同窓会」が開催

第 17 回「神戸大学留学生東日本同窓会」が 2 月 23 日に都内のレストランで開かれました。神戸大学の国内留学生同窓会は 2019 年より東日本と西日本に分かれ、それぞれ毎年 1 度ずつ同窓会が開催されています。この東日本留学生同窓会は、毎年 2 月に東京で開催されています。第 17 回となった今年は日本国内で活躍している卒業留学生に加え、日本人卒業生、大学関係者合わせて 36 名が集い、国籍を超えての交流を深めました。



○詳細は、こちらをご覧ください。

( [https://www.kobe-u.ac.jp/NEWS/info/2024\\_02\\_28\\_1.html](https://www.kobe-u.ac.jp/NEWS/info/2024_02_28_1.html) )

## 【2】お知らせ

### (1) 「Kobe Japanese Program January 2024」を実施

神戸大学大学教育推進機構グローバル教育センター留学生教育部門では、「Kobe Japanese Program January 2024: Explore Kobe and its links to Oceania!」と題した短期プログラムを、2024年1月5日から1月26日にかけて開講しました。5度目の開講となる今回は、対象をこれまでのオーストラリアの大学だけでなく、広くオセアニア地域の大学に広げて日本語を学習中の学生を募集し、オーストラリアの5大学（ウーロンゴン大学、カーティン大学、西オーストラリア大学、ニューサウスウェールズ大学、モナシュ大学：五十音順）から14名、ニュージーランドのヴィクトリア大学ウェリントン校から2名の、計16名が参加しました。初日は開講式とオリエンテーションを行い、参加留学生たちは翌6日に行った神戸地域研究ツアーを皮切りに、約3週間にわたって日本語と地域研究の授業を受けました。



○詳細は、こちらをご覧ください。

( [https://www.kobe-u.ac.jp/NEWS/info/2024\\_02\\_09\\_01.html](https://www.kobe-u.ac.jp/NEWS/info/2024_02_09_01.html) )

### (2) 神戸大学生による「フードドライブ企画」を実施

神戸大学生によって組織される「食品ロス削減プロジェクトチーム」は神戸大学生生活協同組合様や教職員の協力のもと、2024年1月15日(月)・16日(火)・17日(水)・18日(木)の4日間にわたりフードドライブ企画を実施いたしました。

皆様のご協力のお陰で、31.35キログラムの食品が集まりました。

今回寄付いただいた食品は、認定NPO法人フードバンク関西を通じて困窮しているひとり親世帯などへ届けられます。





○詳細は、こちらをご覧ください。  
( <https://www.sdgs.kobe-u.ac.jp/topics/387.html> )

### (3) 食品ロス削減プロジェクト

#### ー 神戸大学災害備蓄食料品余剰分を寄贈

神戸大学生によって組織される「食品ロス削減プロジェクトチーム」と大学教職員が協力して、災害備蓄食料品の更新に伴う余剰品を認定 NPO 法人フードバンク関西に寄贈しました。

今回集められた災害備蓄食料品は 7,324 点（732.4 キログラム）でした。  
フードバンクを通じて支援を必要とする方々へお届けします。



○詳細は、こちらをご覧ください。  
( <https://www.sdgs.kobe-u.ac.jp/topics/390.html> )

#### (4) 国際交流基金の研修生との交流会を開催

2月2日（金）に鶴甲第一キャンパスにおいて、国際交流基金関西国際センター「令和5年度専門日本語研修（文化・学術専門家）2か月コース」および「大阪ガス国際交流財団インドネシア大学日本語研修」の参加者9名を迎え、国際人間科学部・国際文化科学研究科の学生・研究生・研究員9名との交流会を行いました。

交流会では、大学院生、図書館司書、大学教員、政府職員などの職業を持つ国際交流基金の研修生と神戸大学の学生・ポスドクが、観光（日本へのインバウンド）についてグループディスカッションを行い、研修生の出身地であるアジアや南北アメリカの視点から出された論点をもとに意見交換を行いました。後半では、社会科学系図書館で担当職員の解説を受けながら、閲覧室や開架ゾーン、さらに数多くの資料が保管される書庫を巡回した後、映画やドラマの撮影にも使われるキャンパス内の歴史的建造物を見学しました。



○詳細は、こちらをご覧ください。

( [https://www.kobe-u.ac.jp/NEWS/info/2024\\_02\\_16\\_01.html](https://www.kobe-u.ac.jp/NEWS/info/2024_02_16_01.html) )

#### (5) 第2回神戸大学先端バイオ工学研究センターシンポジウム「バイオとデジタルの融合によるバイオものづくりの革新」を開催

2月5日、神戸大学百年記念会館六甲ホールにて、第2回神戸大学先端バイオ工学研究センターシンポジウム「バイオとデジタルの融合によるバイオものづくりの革新」を開催しました。

同センターは、2023年4月、バイオものづくり分野における研究力を強化するため、バイオ×デジタル推進室をコアとする1室4部門に改組しました。今回のシンポジウムでは、新体制となる各部門を紹介するとともに、国内のバイオ工学研究の最前線に立つ研究者等を交え、バイオ工学分野の最新状況についてご報告いただきました。大学・企業関係者、学生など、約150名に参加いただき、この分野の関心の高さが窺える会となりました。



○詳細は、こちらをご覧ください。

( [https://www.kobe-u.ac.jp/NEWS/info/2024\\_02\\_19\\_01.html](https://www.kobe-u.ac.jp/NEWS/info/2024_02_19_01.html) )

(6) 神戸大学起業部のメンバーが、JETRO 主催「J-StarX 欧州派遣プログラム」に参加

日本貿易振興機構（JETRO）が主催し、日本の大学生を対象とした J-StarX 欧州派遣プログラムに、神戸大学起業部の HIM（代表：高橋英眞、農学部 1 年）とそのチームメンバーが参加しました。このプログラムは、グローバルな視点からの起業に必要なマインドセットとスキルを養うことを目的としており、参加者 2 月 13 日から 23 日までの期間、欧州（パリ・デュッセルドルフ）に派遣されました。

参加者は、ソルボンヌ大学（フランス・パリ）、デュッセルドルフ大学（ドイツ・デュッセルドルフ）などの現地の大学及び学生との交流、スタートアップ施設の訪問、投資家や起業家とのネットワーキング、ビジネスアイデアのプレゼンテーションなど、多岐にわたるプログラムに参加しました。

○詳細は、こちらをご覧ください。

( <http://www.innov.kobe-u.ac.jp/entre/news/2024/0227.html> )

(7) 国際海底機構事務局長一行が来訪

2 月 21 日、国際海底機構（ISA）のマイケル・ロッジ事務局長およびマリー・ブーレル＝マッキノン戦略企画室長の一行が本学を来訪されました。国際海底機構は、深海底の鉱物資源の管理を主たる目的とし国連海洋法条約に従って深海底における活動を組織・管理するために設立された国際機関です。海洋



を対象とした教育・研究を実施し関連する産業界に人材を輩出してきた神戸大学との連携を進めることを希望されての来訪となりました。



○詳細は、こちらをご覧ください。

( [https://www.kobe-u.ac.jp/NEWS/info/2024\\_02\\_28\\_01.html](https://www.kobe-u.ac.jp/NEWS/info/2024_02_28_01.html) )

#### (8) 大連大学から訪問

2月28日、中国・大連大学の党委書記 王晋良（オウ・シンリョウ）氏らが、本学の藤澤 正人学長を訪問しました。

懇談には、王 若雨（オウ・ジャクウ）大連大学附属中山病院病院長、張 慶忠（チョウ・ケイチュウ）大連大学中山臨床学院書記をはじめとする代表団が同席され、本学から眞庭 謙昌医学部附属病院病院長、伊藤 智雄医学部附属病院IMCCセンター長、花田 エバ国際連携推進機構准教授が同席しました。



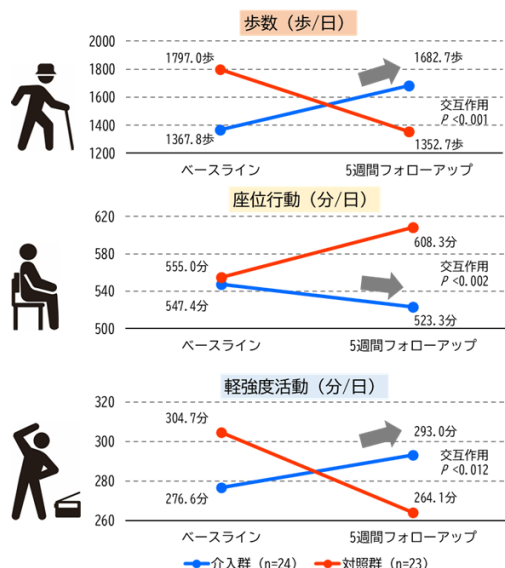
○詳細は、こちらをご覧ください。

( [https://www.kobe-u.ac.jp/NEWS/info/2024\\_03\\_04\\_01.html](https://www.kobe-u.ac.jp/NEWS/info/2024_03_04_01.html) )

### 【3】研究ニュース

#### (1) 加速度計を用いたセルフモニタリング介入が要支援高齢者の介護予防に有効

神戸大学大学院保健学研究科の北村 匡大研究員（令和健康科学大学リハビリテーション学部理学療法学科講師）、井澤 和大准教授らの研究グループは、要支援高齢者を対象に、加速度計を用いたセルフモニタリング介入が歩数、座位行動、軽強度活動といった身体活動を改善することを明らかにしました。



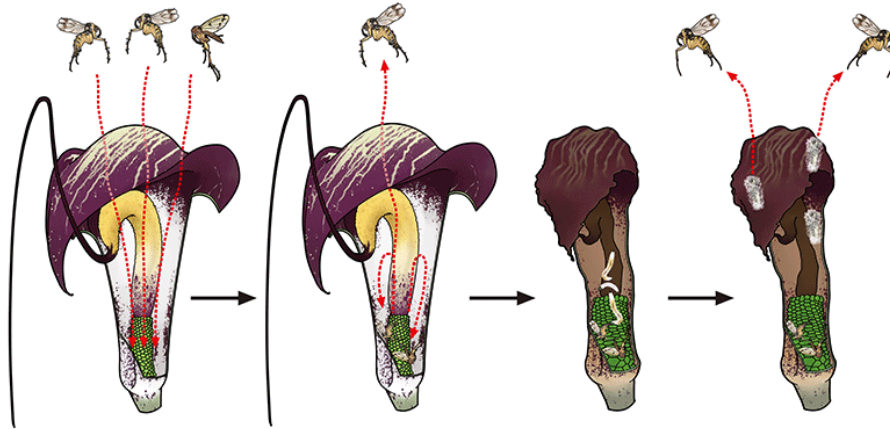
○詳細は、こちらをご覧ください。

( <https://www.kobe-u.ac.jp/ja/news/article/20240216-21788/> )

#### (2) 死の罠が育児室に！ テンナンショウとキノコバエの奇妙な関係

神戸大学大学院理学研究科の末次 健司教授（兼 神戸大学高等学術研究院卓越教授）らの研究グループは、主要な花粉の運び屋（送粉者）であるキノコバエ類の一種イシタニエナガキノコバエがナンゴクウラシマソウ（サトイモ科テンナンショウ属）の花序を産卵場所として利用していることを明らかにしました。さらに、通常は脱出不可能と考えられていた花序の上部から、このキノコバエが脱出できることも分かりました。

テンナンショウの仲間は、送粉者であるキノコバエ類を、雌花序の中に閉じ込めて殺すことが知られていました。しかし、今回の研究により、ナンゴクウラシマソウの主要な送粉者は雌花序から脱出する場合があります、さらにその幼虫が腐った花序を餌として成長することも明らかになりました。本研究結果は、これまでの植物学の常識であった「テンナンショウの送粉者は何の利益も得ない」という考え方を覆す発見です。

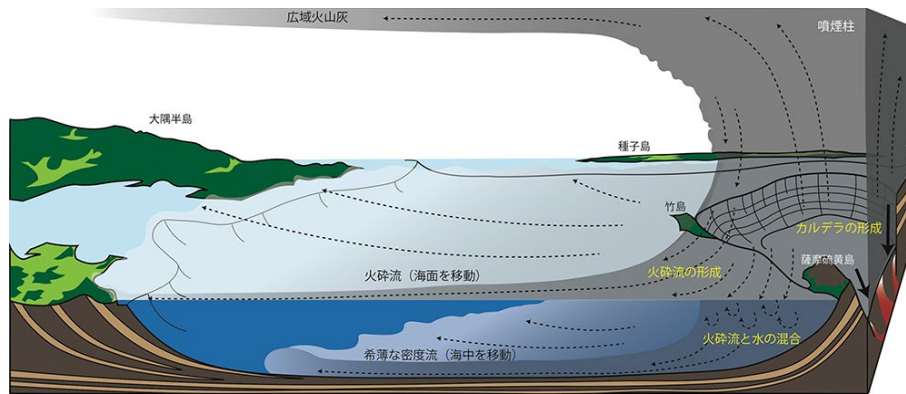


○詳細は、こちらをご覧ください。

( <https://www.kobe-u.ac.jp/ja/news/article/20240220-21787/> )

### (3) 海底を覆う大量の鬼界カルデラ巨大噴火の噴出物を発見 過去1万2千年で地球上最大の噴出量

神戸大学海洋底探査センターの清水 賢研究協力員、同大学院理学研究科惑星学専攻・海洋底探査センターの島 伸和教授、中岡 礼奈助教らの研究グループは、九州南方沖合40kmにある鬼界カルデラ火山周辺の海底が火砕流を起源とする噴出物で覆われていることを発見しました。同海域で行った物理探査と海底から採取した試料分析の結果、この噴出物は7300年前に起きた巨大カルデラ噴火（アカホヤ噴火）から発生した火砕流が海中に突入し、希薄な密度流として4,500平方キロメートル以上の海底に広がったものであることが分かりました。海底に堆積した噴出物は、噴火した当時の状態を良く留めており、物理探査を用いてその量を高精度に見積もりました。火砕流がもたらした噴出量は71立方キロメートル以上におよび、広域火山灰で堆積した噴出量の見積もりと合わせると332～457立方キロメートル以上となります。この結果は、アカホヤ噴火が完新世（11700年前～現代）における地球上の火山噴火で、最も大きなものであったことを示しています。この噴火の火砕流の一部は40kmの海面を渡り、南九州の縄文文明に壊滅的な被害を及ぼしたことがわかっていますが、再びこのような噴火が発生すれば、火砕流や火山灰が現代文明に及ぼす影響は計り知れないものとなります。過去に繰り返し発生している巨大噴火の規模やその噴出物に関する研究から得られる知見は、近い将来に人類や社会に及ぼす可能性がある脅威を理解する上でも極めて重要です。



○詳細は、こちらをご覧ください。

( <https://www.kobe-u.ac.jp/ja/news/article/20240222-21789/> )

#### (4) 土器の形にはなぜ文化差が生じるのか

非伝統的な土器型でも形態発生は共同体特有の軌道を辿る

神戸大学大学院人間発達環境学研究科の野中 哲士教授、ユニバーシティ・カレッジ・ロンドンの Enora Gandon 博士、ディーキン大学の John A. Endler 王立協会フェロー (FRS) らから成る国際研究チームは、フランス、インドのヒンドゥーコミュニティ、ムスリムコミュニティの3つの共同体における熟練陶工が、いずれの共同体でも作られていない土器の型式を手本とし、土器を複製する実験を行いました。

実験の結果、普段作り馴れていない非伝統的な土器の形態であるにもかかわらず、3つの共同体の職人たちが成型した土器の形とその形態発生の軌道から、それを作った個々の職人が属する共同体が定量的に識別できることが明らかになりました。今後、土器の形態等に見られる社会的パターンの生成について既存の見方を覆す新たな理解をもたらすことが期待されます。



© Enora Gandon

© Enora Gandon



○詳細は、こちらをご覧ください。

( <https://www.kobe-u.ac.jp/ja/news/article/20240228-21792/> )

(5) 約1世紀ぶりの快挙！ 新属新種の植物「ムジナノショクダイ」を発見

タヌキノショクダイの仲間は、植物の本懐である光合成をやめた植物の一群で、緑色の葉をもたず、地際にキノコと見紛うばかりの奇妙な小型の花をつける特殊な植物です。神戸大学大学院理学研究科の末次 健司教授（兼 神戸大学高等学術研究院卓越教授）・福岡県の中村康則氏・京都大学大学院理学研究科の中野 隆文准教授・鹿児島大学総合研究博物館の田金 秀一郎准教授からなる研究グループは、鹿児島県の大隅半島の肝属山地から既知のどの属とも異なる特徴をもつタヌキノショクダイ科の植物を発見し、新属としてムジナノショクダイ属 *Relictithismia* を設立し、その新種としてムジナノショクダイ *R. kimotsukiensis* を記載しました。和名の「ムジナノショクダイ」は、一見タヌキノショクダイ属の種に見えるものの、詳細な検討で似て異なることが判明したことから名付けられました。ムジナノショクダイは地中に植物体のほとんどが埋まっており、地下を棲み処とするムジナ（＝アナグマ）の名はぴったりと言えます。

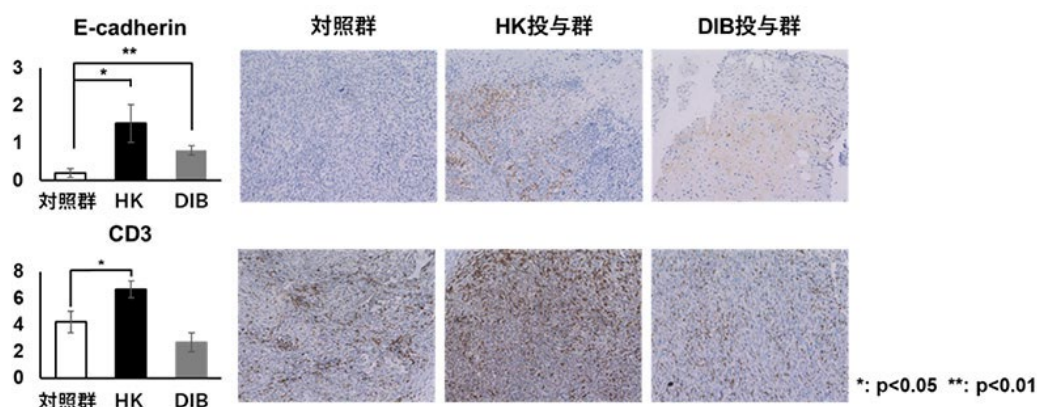


○詳細は、こちらをご覧ください。

( <https://www.kobe-u.ac.jp/ja/news/article/20240301-21791/> )

(6) 前立腺癌におけるコウボク由来物質と抗うつ薬の新規類似物質の抗腫瘍効果を発見

神戸大学大学院保健学研究科博士課程前期課程の丈達 優良、医学研究科の重村 克巳教授、Metroderm/United Derm Partners の Jack Arbiser 氏らの研究グループは、コウボク由来物質のホノキオール (HK) と抗うつ薬イミプラミンの新規類似物質のジベンゾリウム (DIB) が前立腺癌細胞の増殖や移動を抑制することを発見しました。今後は、HK と DIB の効果を多角的なメカニズムから解明し、新たな治療法としての可能性を探索することが期待されます。

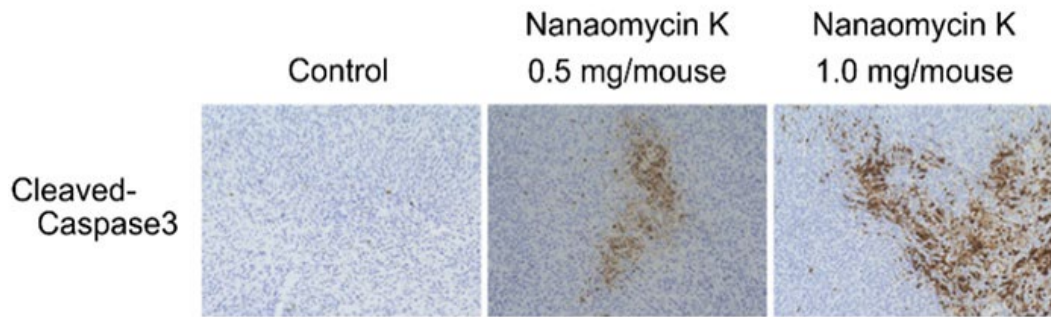


○詳細は、こちらをご覧ください。

( <https://www.kobe-u.ac.jp/ja/news/article/20240307-21795/> )

(7) 放線菌由来新規物質 nanaomycin K が前立腺がんの増殖と転移を抑制することを発見

神戸大学大学院保健学研究科博士課程前期課程 2 年の平田 悠人、医学研究科の重村 克巳教授、同研究科の大谷 亨教授、北里大学の岩月 正人教授、早稲田大学の中島 琢自上級研究員、北里大学の松尾 洋孝 特任助教 (現国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所主任研究員)、国立研究開発法人物質・材料研究機構の中西 淳グループリーダーらの研究グループは、放線菌が生産する新規物質 nanaomycin K が前立腺がんの増殖や転移を抑制することを発見しました。今後は nanaomycin K の増殖や転移を抑制する作用機序を明らかにし、治療薬として最適な投与方法や濃度の検討を行うことで、前立腺がんに対する新規治療薬への実用化が期待されます。



○詳細は、こちらをご覧ください。

( <https://www.kobe-u.ac.jp/ja/news/article/20240307-21794/> )

#### 【4】受賞・受章

(1) KANSAI STUDENTS PITCH Grand Prix 2024 で神戸大学起業部の FairMed が特別賞を受賞

関西圏 13 大学の推薦チームが競い合うピッチコンテストが、2 月 22 日大阪工業大学梅田キャンパス Xport で開催されました。このコンテストは、イノベーション人材の育成に取り組む関西圏 13 大学から選ばれたチームにより行われ、数多くの優れたプロジェクトが発表されました。

「AI による血管内手術ナビゲーションシステム開発事業」を提案した神戸大学起業部 FairMed (代表：福田純礼、医学部 4 年) は、医療分野における効率性の向上を目指すプロジェクトとして、その実用性と社会的影響の大きさと高い評価を受けて、特別賞を授与されました。



○詳細は、こちらをご覧ください。

( <http://www.innov.kobe-u.ac.jp/entre/news/2024/0226.html> )



(2) 本学の共同研究プロジェクトが日本オープンイノベーション大賞を受賞

DX・情報統括本部の藤井 信忠教授と産官学連携本部の富田 克彦特命教授が参画する「BHQ Actions ～楽しく無理なく脳を健康にするための18の行動指針～」プロジェクトが内閣府の日本オープンイノベーション大賞「選考委員会特別賞」を受賞しました。

このプロジェクトは、国際標準に承認された脳の健康指標「BHQ」を用いた研究を基に、脳を健康にする運動や食事、睡眠等の指針を策定し、研究開発や商品企画を行うものです。

○詳細は、こちらをご覧ください。

( [https://www.kobe-u.ac.jp/NEWS/info/2024\\_02\\_27\\_01.html](https://www.kobe-u.ac.jp/NEWS/info/2024_02_27_01.html) )

(3) 第20回キャンパスベンチャーグランプリ全国大会でFairMedが最高賞の文部科学大臣賞・テクノロジー大賞を受賞

日刊工業新聞社が主催する第20回キャンパスベンチャーグランプリ全国大会が2月27日に開催されました。

この大会で、神戸大学起業部のFairMed（代表：福田純礼、医学部4年生）が、AIを活用した血管内手術ナビゲーションシステムの開発事業で、最高賞として栄誉ある文部科学大臣賞およびテクノロジー大賞を受賞しました。神戸大学起業部としては、昨年の経済産業大臣賞に続き、2年連続の最高賞受賞となります。



○詳細は、こちらをご覧ください。

( <http://www.innov.kobe-u.ac.jp/entre/news/2024/0229.html> )



(4) 学生ビジネスプランコンテスト JUMP vol.3 全国大会で FairMed が優秀賞 (グランプリ) を受賞

一般社団法人 AgVenture Lab (JA グループ) が主催する学生ビジネスプランコンテスト JUMP vol.3 全国大会が 3 月 2 日に開催されました。

この大会で、神戸大学起業部の FairMed (代表: 福田純礼、医学部 4 年) が、AI を活用した血管内手術ナビゲーションシステムの開発事業で優秀賞 (グランプリ) を受賞しました。

また、シロアリを活用した水素生成事業のプランを発表した HIM (代表: 高橋英眞、農学部 1 年) は JUMP 賞を受賞しました。



○詳細は、こちらをご覧ください。

( <http://www.innov.kobe-u.ac.jp/entre/news/2024/0304.html> )

(5) JSPS 「令和 6 年度研究拠点形成事業 (A. 先端拠点形成型)」に採択

独立行政法人日本学術振興会の令和 6 年度研究拠点形成事業 (A. 先端拠点形成型) に、神戸大学バイオシグナル総合研究センターを拠点機関とした国際共同研究プロジェクトが採択されました。

< 研究課題名 >

生体膜の分子機構を理解し活用するための国際研究拠点形成

< 研究代表者 >

神戸大学バイオシグナル総合研究センター 森垣憲一教授

< 研究期間 >

令和 6 年 ~ 10 年度

○詳細は、こちらをご覧ください。

( [https://www.kobe-u.ac.jp/research\\_at\\_kobe/NEWS/award/2023\\_02\\_27\\_02.html](https://www.kobe-u.ac.jp/research_at_kobe/NEWS/award/2023_02_27_02.html) )

(6) 人間発達環境学研究科関 典子准教授が「お茶の水女子大学賞：第8回 小泉郁子賞」を受賞

受賞者 人間発達環境学研究科・准教授・関 典子

受賞日 2024年2月13日

受賞名 お茶の水女子大学賞：第8回 小泉郁子賞

業績名 踊るキュレーターとしての舞踊芸術の多元的な普及活動



○詳細は、こちらをご覧ください。

( [https://www.kobe-u.ac.jp/research\\_at\\_kobe/NEWS/award/2023\\_02\\_27\\_01.html](https://www.kobe-u.ac.jp/research_at_kobe/NEWS/award/2023_02_27_01.html) )

【5】フィーチャー

(1) 「人間の安全保障」からSDGsと国際関係を考える

世界の一人ひとりを生存の危機から守る

「人間の安全保障 (Human Security)」という言葉がある。他国からの侵略や攻撃を防ぎ、国家の独立を守る国家安全保障 (National Security) に対して、世界に生きる一人ひとりの安全を実現するという考え方です。たとえば、極度の貧困や飢餓、教育の欠如、武力紛争と難民、テロやジェノサイド (大量虐殺)、大規模災害に感染症……人びとの生存をおびやかす問題すべてが対象となります。

国連が2012年に決議したこの規範的概念に注目し、長く研究してきたのが神戸大学大学院法学研究科の栗栖 薫子教授である。なぜこうした考えが生まれ、どのように広まり、影響力を持つようになったか。国際政治学者の視点からプロセスを調べ、分析してきている。



○詳細は、こちらをご覧ください。

( <https://www.kobe-u.ac.jp/ja/news/article/20240220-21743/> )

## (2) 自民党派閥の政治資金パーティー裏金事件を問う

政治資金規正法違反の罪で国会議員が逮捕され、派閥の会計責任者らが立件された自民党派閥の政治資金パーティー裏金事件は、政界を大きく揺るがしています。自民党の政治刷新本部は、是正に向けた中間報告をまとめましたが、派閥や政治資金パーティーの全廃に踏み込まず、通常国会で野党が激しく追及しています。「政治とカネ」のスキャンダルはなぜ繰り返されるのか。政治はどう変わるべきか。政治学が専門の藤村 直史大学院法学研究科教授に聞きました。



○詳細は、こちらをご覧ください。

( <https://www.kobe-u.ac.jp/ja/news/article/20240226-21790/> )

(3) シャーレ上で発生を再現し、“植物の生きざま”を理解する

葉から維管束へ、細胞が生まれ変わる

料理で切り取った残りの豆苗を水に浸しておくと、再び芽や葉が伸びてくるように、植物には極めて高い環境適応能力が備わっています。神戸大学大学院理学研究科の近藤 侑貴准教授は、なかでも環境適応に必要な維管束（いかんそく）という器官に着目をして研究を進めています。維管束は、水や栄養分を運ぶ輸送管、植物体の支持、電気シグナル伝搬など多面的な機能を有していますが、元は維管束幹細胞から分化したものです。それら維管束を構成する多様な細胞の運命がどのように決められていくのか、独自に開発した培養技術を用いて明らかにしようとしています。



○詳細は、こちらをご覧ください。

( <https://www.kobe-u.ac.jp/ja/news/article/20240305-21745/> )

【6】 イベント等情報

(1) イベント情報

○詳細は、こちらをご覧ください。

( <https://www.kobe-u.ac.jp/NEWS/event/index.html> )



### ★「KU-Net」からのお知らせ

「神戸大学コミュニティネットワーク(KU-Net)」をリニューアルし公開しております。

従来からの、「OB・OG 訪問」の機能に加え、「卒業生からのメッセージ」や「在学生の今」の掲載をしております。また、卒業生等が開催するイベントへの参加申し込み機能も追加しました。

詳しくは、神戸大学コミュニティネットワークホームページ  
(<https://www.office.kobe-u.ac.jp/alumni-ku-net/>)でお知らせしています。

また、KU-Net の説明動画を YouTube にアップしておりますので併せてご覧ください。

(<https://youtu.be/ZqHCVW0VsuU>)

是非ご登録ください。

### ★神戸大学校友会ホームページ

<https://www.org.kobe-u.ac.jp/ku-alumni/>

### ■支部所属の会員の皆様にもお知らせください

神戸大学校友会事務局

657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1

神戸大学企画部卒業生・基金課内

TEL 078-803-5042 FAX 078-803-5024

E-mail: [plan-ku-alumni@office.kobe-u.ac.jp](mailto:plan-ku-alumni@office.kobe-u.ac.jp)